

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、  
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2014.9.12-2014.12.11)



## Contents

- P.1-3 震災復興リーダーインタビュー
- P.4-6 今季のトピックス
- P.6 プロジェクトの進捗
- P.7 ご支援ご寄付のお願い

## 1 震災復興リーダーインタビュー

震災後、実家の家業でもあり震災によって途絶えつつある、伝統的工芸品「大堀相馬焼」のリブランディングを手がける、福島県浪江町出身の松永武士さん。もともとは家業なんて興味はなかったという松永さんに、プロジェクトを始めたきっかけや目指しているものについて、お伺いしました。



松永武士さん

— どういったきっかけで今のプロジェクトを始めることになったのですか？

SFC在学中に起業していて、中国で事業を展開しようとしていたのですが、出発直前に震災が起きました。事業のために借ったお金や仲間との約束のことを考えると、行かないという選択はできず、両親の無事を確認して、中国に向かいました。なので、1番大変だったであろう時期に海外にいたので、何もできなかったという思いがありました。また、僕の地元は浪江町にあり、実家は大堀相馬焼という伝統工芸品を300年つくり続けている窯元でした。原発事故が起きて、「もう帰れない」とわかった時に、残すものがないのは悲しいと思ったのです。過去の先人たちから受け継いできた歴史や文化が、消えてしまうというのはもったいない。別の方法で根付かせる方法を考えたいなと思いました。お金を回しながら、持続的に文化や歴史を残せないかと思ったんです。

— ご実家が、窯元なのですね。前から「将来は自分が継ぐぞ」という気持ちでいらしたんですか。

震災前はむしろ、興味が全くありませんでした。高校までは福島でずっと暮らしてきましたが、地元には飽きてしまっていて、あまり未練を持たずに東京に出てきました。

—じゃあ、震災がきっかけで、その価値観が変わった。

ゼロになってしまった、ゼロというかもはやマイナスになってしまったので、どうやったらいいかわからないことだらけなんですよ。地域の文化を代々受け継いできた人たちも、上の世代の教えを一生懸命勉強して継承していたけれど、ゼロからやるっていうのは経験がないことだったりする。僕も出身は浪江だけれど、東京や海外に行って新規事業を作ったりした経験も少しはあったので、そういったアプローチが役立つといいなと思ったのがきっかけです。そこをETIC.さんの創業支援プログラムで後押ししてもらって、今に至りますね。



—もともと地域には何軒ほどの窯元さんがあったんですか？

震災前は25軒ありましたが、郡山やいわきなどへ移転して、県内で再開したのは7軒です。あとは県外にも3軒くらい移転しました。もともと職人さんが高齢で後継者がいなかったり、売り上げが下がっているという状況もあり、半分以上は震災を機にやめてしまいましたね。

僕らの親世代は、バブルがはじけて、売り上げがガタンと落ちて一番つらい時期を経験しています。なので、子ども世代には継ぐことをあまり推奨しない人が多いようで、僕も両親には「継げ」とかは言われたことがありません。そうこうしているうちに、震災も起きて担い手がさらに減ってしまっ

—そうなんですね。

—商品のWEBサイト (<http://www.kachi-uma.jp/>) を見せてもらいましたが、音がすごく綺麗なと思って。

相馬焼は、窯だしをした際にひび模様が入るのが特徴の1つで、あの音はその時に鳴るものなんです。伝統を生かしつつ、現代の生活様式や感性に合わせた商品を出していけたらと思っていて、アーティストとコラボした湯呑やアクセサリーを作ったりもしています。

—これまで頑張って事業を進めてこられたと思いますが、今回右腕に加わっていただいて、飛躍させたいのは、どういう部分なんですか。

これまでは実家の窯元とだけしかできなかったのですが、それですと、地域全体に広がっていきません。ありがたいことに大企業から大口で発注を頂いたりもするのですが、限られた納期の中で一つの窯だけでは焼き切れず、お断りをせざるを得ないというもったいない状況です。また、年に5~6回は、海外の展示会でも販売しています。実家の窯だけでは生産量が限られるので、今後はうまく製造を他の窯元さんと配分してみんなでやっていけるようにしたいんです。

窯元では、職人さんを雇い、作ってもらったものをもとに、釉薬で自分の好きな絵や色をつけて販売します。ただ、今は職人さんが一人しかおらず、うちの窯も含めて、いろんな窯を掛け持ちしている状態です。また、窯元と窯元の間でのコミュニケーションもあまりとれていないので、このプロジェクトを通して、お互いがんばろうとモチベーションをあげていく場にできればと思います。「自分の代で終わらせよう」という高齢の方が、次の代につなげようと思ってくださるといいなと考えています。



## —右腕には、どういう役割を担ってほしいですか？

相馬焼にはもともと問屋がなく、窯元が独自に福島市や仙台まで行ったりしている状態でした。有田焼とか九谷焼などの他の地域ですと、ちゃんと問屋がいて、窯元から買い上げて流通の責任を持ち、営業して東京で売ったりしている構造がちゃんとあります。相馬は、製造も営業も強みを持たず、どっちつかずになっているのが現状だと思います。6次産業化として製造から流通まで全部一貫してやるにも、まず相馬焼が売れるようにならないと、「問屋はもういりません」という構造にはならない。

なので、右腕の方には窯元さんを回りつつ、得意不得意を見極めて、製造の管理の仕組みを整えていただきたいです。もちろん丸投げするわけではなく、最初は僕自身も一緒に回り、どういう仕組みで製造するのがいいか、一緒に考えながら固めていけたらと思います

## —どうの方が向いているでしょうね。

伝統工芸に携わったことがなくてもいいので、ある程度大きな企業で製造管理などの経験がある方に来ていただきたいですね。僕自身、これまでベンチャー的な立ち上げを経験してきてはいますが、安定期を経験したことがないんです。そういうビジネス経験をつまれてきた方と、チャレンジできたらいいなと思いますね。あとは、東京的な言語も喋れて、地域のおっちゃんたちとも喋れる、柔軟な方がいいなと思います。



## —その人と一緒に、どういうゴールを目指していくんでしょう。

震災前は、相馬焼全体の売り上げ規模が年間で3億くらいあったんです。窯元の数はいま減りましたが、やはり3億くらいまでまずは戻したいですね。窯元さんや職人さんたちが、生活に余裕を持てることは大事だと思っています。他の窯元さんの子どもと話していると「あんまりお金がないから継ぎたくない」という人も多いです。自分自身も子どもの時、家が土日忙しくて旅行なんかは親戚の人と行くような感じで、「サラリーマンの家はいいな」って思っていました。

## —無理をして作られたものじゃなく、作り手が幸せに生きていたり、持続可能であったり、そういうものを使いたいなと買い手側としても思います。子どもの頃から、そういう大変そうな状況を見ていたけど、やっぱり面白みもありましたか。

父はたまに海外に行っていましたし、震災前はアメリカに結構卸していたんですよ。伝統って、普通だったら行けないような場所にもものを置かせてもらったり、いろんなものを飛び越えることができる。それが長年続いてきたということの価値ですよ。みんなが応援してくれますし。子どものときはそういう良さはわからなかったけど、このプロジェクトも、最終的にはやっぱり地域での雇用に繋がるといいなと考えています。こういうものを好きになってくれて、「カッコいいから就職したい」とか「こういう事業に携わりたい」と思う人が増えたらいいなと思いますね。

## —そうなるといいですね。ありがとうございました！

聞き手：田村真菜(ETICスタッフ)

書き手：馬場加奈子



## 2 今季のトピックス（2014.9.12-2014.12.11）

### ■日米リーダー交流プログラム（10月23日～10月31日） ～米国から復興の仕掛人を招聘～



3年間の事業として実施している『日米リーダー交流プログラム』の2年目として、2005年8月全米史上最悪の自然災害といわれるハリケーン・カトリーナから“起業のまち”として注目を集めるようになったニューオリンズ、2008年に地域の経済・雇用の1/3が急遽失われ経済危機に陥ったオハイオ州クリントン郡ウィルミントン市、米国2都市より民間非営利団体のリーダー4名を招聘し、東日本大震災からの復興に取り組む東北各地での意見交流会や勉強会、そして10月30日には仙台にて100名規模のフォーラムを、翌31日には企業等で復興に携わる方々50名程とのミーティングを実施しました。人々が同じ方向を見て復興に取り組むためのビジョンをどう形成していくか、また、依存構造がもたらすリスクと向き合い、地域の本来持つ力を回復させていく、そのプロセスには、これからの地域再生へのヒントが詰まっていました。

### ■みちのく仕事 右腕派遣プログラムマッチングフェア AUTUMNN (11月1日)

今回のマッチングフェアでは、10のプロジェクトのリーダーと66名の参加者が集まりました。右腕を募集するリーダーたちによるパネルトークには、陸前高田市周辺の農水産物のブランディング・販売手掛ける関欣哉氏（有限会社ビッグアップル代表取締役）、伝統工芸品の大堀相馬焼のブランディングを手掛ける松永武士氏（ガッチ株式会社代表取締役社長）、福島第一原発事故により避難を余儀なくされている南相馬市小高区で、故郷の街を取り戻そうと活動する和田智行氏（小高ワーカーズベース代表）が登壇。「お客さんには良いものを良い価値で出さないと買ってもらえない。『いいもの』にして勝負しなくてはいけない。ステップを踏んでいくと良い」「現在はゼロだが、ゼロから新しい価値あるものを積み上げるフェーズなのでその状況をワクワクしてくれる人に来てもらいたい」など、現在の東北に関わる魅力、右腕への期待などが話されました。その後のリーダーたちのプレゼン、ブース交流会でも熱い交流がなされました。



## ■ ハブ合宿@南三陸（12月4日～5日）



12月4～5日の日程で、ハブ強化事業に採択されている4団体の合同合宿を実施。今回が第2回となる合同合宿は南三陸町観光協会がホストとなり南三陸町で開催。約25名の参加者による本プログラムでは、2年後の自立化に向けた事業戦略の見直しを行うワークショップや、南三陸町における観光（交流）事業の説明をもとに意見交換を行った。助成期間である2年間でいかに実績を上げ、どのように事業継続の目処をつけていくかは、どの団体にも共通している課題であり、ETIC.の担当コーディネーターも交え、各団体間でも活発な議論が展開された。また、外部ゲストとして、能登で町づくり会社を経営している株式会社御祓川の森山社長から「どのように持続化する仕組みを構築しているのか」「どのような想いで町づくりに臨んでいるのか」といった地域でのハブ団体としての先行的取り組みも紹介。次回合宿は6月上旬に釜石で開催予定。

## ■ 東北の事業者向け「プロジェクトマネジメント・ワークショップ」を開催（12月7日）

日本IBMとETIC.は東北で復興に取り組んでいる事業者を対象としたプロジェクトマネジメント・ワークショップを仙台で開催しました。ワークショップには5団体が参加。実際に現場で取り組んでいるプロジェクトを題材に、ビジネスの最前線で活躍するIBMのプロジェクトマネジメント専門家が伴走しながら取り組みました。ワークショップではプロジェクトのゴールの確認、マイルストーンの設定の仕方、作業計画と要因計画の立て方、ステークホルダー・マネジメント、リスク管理、プロジェクトの終結といった一連のマネジメントの基礎を学びました。参加した団体からは、「プロジェクトゴールを可視化することで、チームのメンバーの認識にズレがあったことが分かった」「これまで自分流のマネジメントをしていたが、基礎を学べたので抜け漏れがないか確認できるようになった」「計画と体制を可視化することで自分たちの課題が明らかにできた」などの声が聞かれました。



## ■ 右腕合宿（12月13～14日）

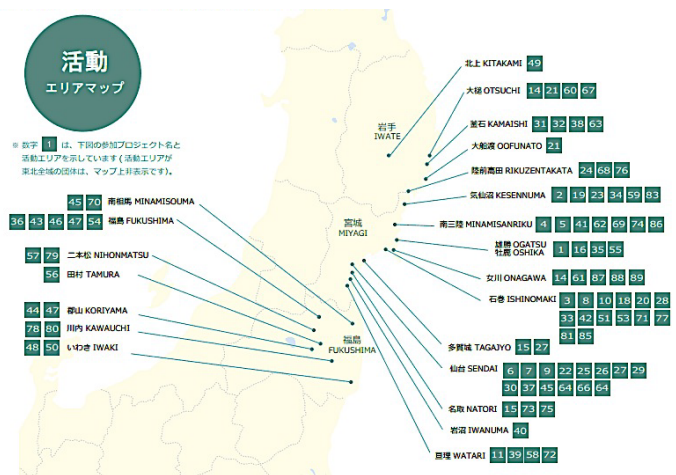
2014年12月13・14日の2日間で派遣中右腕を対象とした「右腕合宿」を開催しました。今回は岩手県陸前高田市にある箱根山テラスを会場に、右腕15名、オブザーブ2名、OB4名が参加しました。右腕同士、どこでどのような活動をしているのか？どのようなことにモヤモヤを感じながら活動しているのか？などを話すことで互いを深く知り、学び合えるネットワーキングを構築することを狙いに、参加者同士の会話を中心としたプログラムで構成をしました。懇親会では近隣で活動中のOB4名が参加し、一層賑やかなひと時になりました。参加者からは「仕事に対する姿勢やビジョンを聴く事で、良い刺激になった。モヤモヤを共有したり聴いた事で、スッキリ・ホッとした。」など、他の右腕の話を受けて気持ちを新たに各活動地域に戻られたようです。次回の右腕合宿は2015年4月11・12日を予定しています。



## 3 プロジェクトの進捗

2014年12月11日の時点で、112のプロジェクトに202名の右腕人材を派遣してまいりました。派遣期間（1年間）が終了した右腕人材（社会人に限定）の約60%が継続して被災地に残り、そのうち15名は自ら起業するなど、彼らは被災地での重要な役割を担いつつあります。現役（派遣期間中）の右腕とあわせると、現在120名の人材が、東北の担い手として活動を行っています。

2013年に新たに設定した、「5年で300名」の派遣に向け、今後も精度の高いマッチングと各種サポートを行ってまいります。





## 4 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付・助成金等の総額は、入金見込額も含めて、757,694,601円という多額のご支援をいただいております。この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。本プロジェクトは、当初、2013年度末までの3年間を目安に取り組んでおりました。しかし、東北の復興が本格化していく中で、中核事業である右腕派遣プログラムへのニーズは、更に高まってきており、2015年度末までの中長期計画を策定しました。

右腕派遣は初期に設定した目標から、「5年で300名」へと上方修正しております。目標の変更に伴い、2015年度末までの2年間で約4億3千万円の支出を見込んでおり、残り1億2千万円ほどの資金調達に向けて、改めて資金調達戦略の強化を実施してまいります。皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

>>寄付ページURL [http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations\\_support/please\\_donate](http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations_support/please_donate)

### 《ご寄付の受付》

#### ■信頼資本財団「震災復興リーダー基金」

<http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic2/>

※公益財団法人である信頼資本財団は、特定公益増進法人に該当するため、寄付者の税は確定申告をすることによって寄付金控除の優遇措置を受けることができます。

#### ■Global Giving

<http://www.globalgiving.org/projects/sponsor-fellows-for-tohoku-and-japans-recovery/>

※米国在住の方は、GlobalGivingから寄付していただくと、税控除を受けることができます。

#### ■American Express (メンバーシップ・リワード)

[http://catalogue.membershiprewards.jp/viewAwardDetail.mtw?productId=4487681&categoryName=jp\\_21a\\_charity\\_tohoku](http://catalogue.membershiprewards.jp/viewAwardDetail.mtw?productId=4487681&categoryName=jp_21a_charity_tohoku)

※アメリカン・エクスプレスのカード会員さまは、ポイントによる寄附ができます。

### 連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC.内 震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局 (担当: 山内・押切)

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail : [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp) Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>